

## 子どものやる気を引き出すために

先日、幼稚部の入園テストを行いました。そのテストに先駆けて、保護者との面談も行いました。その面談の際に、「やらされる学習」ではなく、「自分でやる学習」を目標に頑張りましょうという話をさせていただきました。では、子どものやる気を引き出すためには、親としてどのようなことを心掛けて、子どもに声かけをすれば良いのでしょうか。



子どもに何かやって欲しい時、私も含め多くの親は、「〇〇しなさい」と言ってしまいます。実は、この言い方は子どもの反発心を抱かせてしまうこともあるのです。命令口調は子どもを操作しようという親の気持ちの表れです。言い続けることで、子どもは自信を失ったり、言わなければならない依存体質になってしまうこともあります。そんな時は、ちょっと言い方を換えてみてください。例えば、「宿題しなさい」ではなく、「宿題する？、

おやつを先に食べる？」など、子どもに考えさせる選択肢を与えます。子どもに選択させることで、子どもが責任や自尊心を持って行動できるようになります。責任や自尊心のある子どもには自信がつかます。「自分ならできる」「やり遂げられる」と自分で思える子どもは自信がつかます。

そのために、「勇気づけ」が大切です。勇気づけは褒めるというのと少し違います。褒める時は、「良い子ね」「えらいね」というところ、勇気づけでは、「ありがとう」「助かったよ」と伝えます。褒められてばかりいる子どもは、他者の評価が基準になり、自信が芽生えず、困難に立ち向かうことができないこともあります。ただ褒められるだけでなく、「人の役に立っている」「感謝されている」と感じることで自発的に相手に喜んで貰える行動ができるようになります。それが積み重ねられると「自分だってできるんだ」という子どもの自信につながります。「自信」は「挑戦しよう」という次なるやる気にも繋がっていきます。宿題をしている子どもには、「えらいね！すごいね！」ではなく、「頑張っているね！嬉しいよ！」と声をかけてみてください。「いつも見ているよ」「応援しているよ」という視点があれば、子どもも安心して、次も頑張ろうと思います。



親として、ついガミガミ言ってしまうところをグッと抑えて、子どもの良いところピックアップしていくことは大切です。私を含め、親としては、「躰の部分」と「勇気付け」のバランスが難しいのですが、無限の可能性を秘めた子どものため、心掛けてみる価値はあると思います。

※参考文献 子どもの「自信」と「やる気」をぐんぐん引き出す本 原田 綾子 (著)

## 漢字検定実施に伴う下校時間の変更について



本日、漢字検定を実施します。それに伴って、子どもたちの下校時間が変わります。

幼稚部 さくら普通 12:20、さくら延長 13:15、もみじ 13:25

受検しない小・中学部 13:35、8級～10級受験者 15:00、2級～7級受験者 15:20

## 年次総会回答方法の変更について

1月7日付文書でお知らせしたとおり、年次総会回答方法が電子回答方法に変わります。回答締め切りの2月4日(土)までにご回答いただけるようお願いいたします。

## 退学届のお願い

既に在籍希望調査でその動向を調査していますが、退学希望調査は調査であって、正式な物ではありません。退学を考えてられるご家庭におかれましては、正式に退学届をご提出ください。その退学届をもって、次年度の学費等の銀行引き落としを停止させていただきます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。